

本校の特別支援教育について

<特別支援教育>

1 歩み

年	で き ご と
昭和 9 年	養護学級を設置（本県最初）
昭和 19 年	病虚弱児施設設置
昭和 34 年	病虚弱児学級認可
昭和 43 年	知的障害学級，言語障害学級，宮城県で最初の聴覚障害学級を各 1 学級設置
昭和 44 年	聴覚障害学級 1 学級増で障害児学級教室改造
昭和 48 年	言語障害学級 1 学級増で 2 学級
昭和 49 年	宮城県言語障害教育研究会事務局
昭和 50 年	宮城県並びに仙台市教育委員会より特殊教育研究指定
昭和 51 年	特殊教育研究指定，「障害児の自己開発をめざして」のテーマで研究公開
昭和 57 年	1 学級減で病虚弱学級 1 学級
昭和 58 年	1 学級減で聴覚障害 1 学級
昭和 59 年	知的 2 学級，聴覚 1 学級，言語 2 学級，病虚弱 1 学級
昭和 60 年	知的 1 学級，情緒 1 学級，聴覚 1 学級，言語 2 学級，病虚弱 1 学級
昭和 63 年	全難言協全国大会事務局，全国大会開催
平成 元 年	特殊教育課程研究文部省指定校
平成 2 年	特殊教育課程研究文部省指定校 研究公開
平成 5 年	言語障害学級が廃級となり，言語通級指導教室を 3 教室設置
平成 7 年	特殊教育研究連盟全国大会 公開授業
平成 8 年	特殊学級 5 学級(知的，自閉症・情緒，病弱，聴覚，弱視)，言語通級指導教室 3 教室
平成 9 年	特殊学級 5 学級(知的，自閉症・情緒，病弱，聴覚，弱視)，言語通級指導教室 2 教室
平成 15 年	特殊学級 4 学級(知的，情緒，聴覚，弱視)，言語通級指導教室 2 学級
平成 16 年	特殊学級 5 学級(知的，情緒，聴覚，病虚弱，弱視)，言語通級指導教室 2 学級
平成 17 年	特殊学級 4 学級(知的，情緒，聴覚，病虚弱)，言語通級指導教室 2 学級
平成 20 年	特別支援学級 4 学級(肢体，情緒，聴覚，病虚弱)，言語通級指導教室 2 学級， ことばの教室開設 50 周年記念式典開催
平成 21 年	特別支援学級 3 学級(自閉症・情緒，聴覚，病虚弱)，言語通級指導教室 2 学級
平成 22 年	特別支援学級 4 学級(知的，自閉症・情緒，肢体不自由，聴覚)，言語通級指導教室 2 学級
平成 24 年	特別支援学級 5 学級(知的，自閉症・情緒，肢体不自由，聴覚，弱視)，言語通級指導教室 2 学級
平成 25 年	東北特別支援教育研究大会宮城大会 言発専門部 授業づくりと支援部会開催
平成 29 年	

2 指導の方針

○ 知的障害学級（なかよし）

一人一人の実態を踏まえ，個々の能力を最大限に伸ばすための生活に即した学習指導を行う。また，社会の一員として自立するための基礎的な社会性を集団生活の場を通して養う。

○ 自閉症・情緒障害学級（いちよう）

個々の能力を十分発揮できるよう，学習環境の設定に努め，指導の工夫に当たる。また，基本的生活習慣の形成，社会生活への適応を図っていく。

○ 肢体不自由学級（けやき）

児童の実態に応じて，身近自立・社会生活に必要な生活習慣の確立を図る。また，家庭・学校・諸機関と連携しながら教育を進める。

○ 弱視学級（ひまわり）

視覚障害の状態に配慮しながら学習内容や指導方法を工夫し、自発的な学習を促す。また、通常学級との交流を深めることで児童同士の経験や社会性を伸長させる。

○ 聴覚障害学級（ほちょう）

児童の聴力障害に応じて補聴器などの機器を使い、残存聴力を充分活用して、学校・家庭・社会によく参加していけるように、正しく聴き取り、意思伝達能力を高める指導を行う。併せて生活上必要な教育相談も行う。

○ 言語障害通級指導教室（ことば）

個々の言語障害の程度に応じた個別指導を基本とする。発音のみにこだわることなく児童の成長発達との関わりを考慮し、健全な社会生活を営む能力や態度を育成する。また、家庭・学校・関係機関の連携のもとに教育を進める。

3 本年度の重点目標

知的障害学級	個別指導の工夫・改善を図り、生活力を高める意欲を養う。
自閉症・情緒障害学級	児童と教師が信頼関係を築くとともに、話を聞いて見通しをもって進んで取り組める力を養う。
肢体不自由学級	心身ともに活力のある生活ができるように、体力、運動能力、作業能力などを養う。
弱視学級	交流学級も含めて校内での生活に慣れ、実態に応じて指導内容や方法を工夫する。
聴覚障害学級	補聴器を使い残存聴力を活用し、社会生活に参加できる態度、能力を養う。
通級指導教室	言葉に関する様々な課題を抱える児童のコミュニケーション能力の向上を支援する。

<東北大学病院分校>

1 歩み

年	で き ごと
平成 9 年	東北大学附属病院に院内学級 1 教室開設となる。
平成 10 年	東北大学加齢医学研究所に院内学級 1 教室開設する。
平成 11 年	名称をおおぞら学級とする。（院内学級 3 学級となる）
平成 12 年	東北大学附属病院院内学級と東北大加齢医学研究所院内学級統合となる。
平成 15 年	院内 3 学級となる。
平成 17 年	院内学級が、東北大学病院分校となる。
平成 18 年	新病棟へ移転（東 5 階）

2 指導の方針

- 自ら学ぶ姿勢を身に付けさせることにより、自主的学習を促し、将来にわたり心身ともに健全な生活を送ることができるようにする。
- 児童が療養をしながら、健康の回復、改善、また、機能の維持を図り、基礎的・基本的な知識・技能を養う。